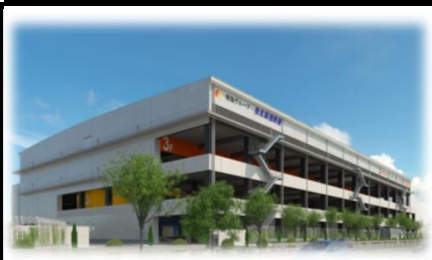


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北大阪トラックターミナル新1号棟建	階数	地上4F
建設地	茨木市宮島二丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	250 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年2月19日
敷地面積	22,070 m ²	作成者	太田裕人
建築面積	15,031 m ²	確認日	2019年2月19日
延床面積	49,981 m ²	確認者	松井宣明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.8</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.5</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.2</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.2</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>茨木市のトラックターミナル敷地内に新築される倉庫の計画である。植栽やベンチを設置した屋上テラスの計画や執務空間環境に配慮した計画により利用者の快適性向上を図ると共に、節水機器やリサイクル材の採用、高効率設備による省エネ性能の向上で地球環境に配慮している。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>音環境、光環境、空気室環境に配慮し快適な執務空間となるよう計画している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>更新間隔の長い内装材や配管材料を採用し耐久性に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>既存棟との調和を図った白い壁面を基調とした。また川向うからの視認性や新幹線からの視認性なども検証し外観をデザインすると共に周囲には緑化を配し景観に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>高断熱の外装材料を採用することで熱負荷軽減に配慮した。高効率な機器を採用し、エネルギーの削減を図った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>省水型機器の採用により節水に配慮している。またリサイクル材の採用や再利用可能ユニット部材の採用で省資源に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂排出量削減に配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0156

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	北大阪トラックターミナル新1号棟建設工事					
		建設地	茨木市宮島二丁目					
		用途/区分	工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					3		
③	建物の断熱性					評価対象外		
④	エネルギー削減					5		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.8	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					-	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								